

静岡県スタートアップ支援戦略推進委員会 議事録

日時：令和8年2月13日（金）10：00～11：30

場所：オンライン開催

1 開 会

○司会（石井産業イノベーション推進課長代理）

本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

産業イノベーション推進課の課長代理の石井と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

ただいまから令和7年度第2回静岡県スタートアップ支援戦略推進委員会を開催いたします。

本日の委員会は1時間から1時間半を予定しております。

それでは開会に当たりまして、山家産業革新局長から御挨拶を申し上げます。

2 局長挨拶

○山家産業革新局長

皆様改めましてこんにちは。産業革新局長の山家と申します。

本日はお忙しいところ、スタートアップ支援戦略推進委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本委員会では、昨年10月に第1回目の会議を開催しまして、今年度の取組の進捗状況と令和8年度のスタートアップ支援戦略の方向性について、皆様から多くの貴重な御意見をいただきまして、改めて御礼を申し上げます。

第2回目となる本日ですが、前回、皆様からいただきました御意見を踏まえて取りまとめました、スタートアップ支援戦略2026の案、また来年度の施策について、改めて御意見を頂戴したいというふうに考えております。

今週の火曜日、2月10日になりますけれども、県の令和8年度の予算案が公表されたところでは。

皆様も報道で御存じかと思えますけれども、県の財政状況が非常に厳しい中で、昨年夏から全庁的に事業の廃止や見直しなど、徹底した歳出削減に取り組んでまいりました。

この度、知事が特に力を入れております、今回お諮りしているスタートアップ政策につきましても、事業の必要性を精査しまして、いくつかの事業の見直しを行ってまいりました。

一方で、後ほど詳しく御説明いたしますが、AIの導入促進や次世代の人材育成など、この時代に必要となる施策につきましては、私どもとしても、きちんと予算を確保したうえで、実施してまいりたいというふうに考えているところでございます。

AIをはじめ、様々なテクノロジーが急速に進歩しているような中で、一方で新しいビジネスチャンスが拡大しております。

また企業や地域の課題も複雑化、多様化しております。

こうした中で、本県の産業の競争力を高めて持続的な成長を実現するためには、やはりスタートアップは欠くことのできないプレーヤーというふうに考えております。

この戦略でも掲げております、スタートアップの「創出」、「育成」、「連携」、「誘致」に向
けて、戦略的に施策を講じていく必要があるというふうに考えているところでござい
ます。

本委員会における皆様からの御意見や御提言を、実効性の高い戦略の策定と、施策の実施
に繋げていきたいというふうに考えておりますので、皆様から本日も忌憚のない御意見を
いただければ幸いです。

では本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 各委員紹介、委員長選任

○司会（石井産業イノベーション推進課長代理）

それでは本日の議事進行につきましては、後ほど委員長の選任をさせていただきますが、
それまで私の方で進行させていただきます。

初めに本委員会の委員についてであります。資料の1を御覧ください。

本委員会の委員につきましてはそちらの名簿のとおりでございます。

なお本日につきましては、田島 聡一様が御都合により遅れて御参加される予定です。

また、山本 敬介様、岩本 進也様、久島 廣也様につきましては、本日御都合により御
欠席になります。

議事に入る前に2点、申し上げます。

1点目についてですが、本日の会議は公開となります。

2点目につきましては、本日の議事につきまして、議事の概要は県のホームページで公開
したいというふうに思っておりますので、御承知おきをよろしくお願いいたします。

それでは議事に移ります。

以後の議事進行につきましては、「静岡県スタートアップ支援戦略推進委員会の設置及び
運営に関する要綱」第5条に基づき、木村委員長にお願いしたいと存じます。

それでは木村委員長よろしくお願いいたします。

4 静岡県スタートアップ支援戦略2026（案）について

○木村委員長

ただいま御指名いただきました木村でございます。よろしくお願いいたします。

それでは次第に基づきまして、議事を進行させていただきたいと思えます。

まず静岡県スタートアップ支援戦略2026（案）について、事務局の方から一括で御説明
をいただきたいと思えます。

全ての説明が終わった後になりますが、意見交換の時間を設けておりますので、委員の皆
様からはそこで御意見いただけたらと思えます。

それでは事務局からの説明よろしくお願いいたします。

○事務局（内藤産業イノベーション推進課長）

では事務局の方から説明させていただきます。

静岡県の産業イノベーション推進課長の内藤と申します。よろしくお願いいたします。

では資料の方を共有させていただきます。

資料3になります。

こちらスタートアップ支援戦略2026の案になります。こちらに基づいて御説明をさせていただきます。

まず3ページですけれども、今年度、2025年度の取組の一覧になってございます。

今年度につきましては、資金調達支援を中心に「創出」、「育成」、「連携」、「誘致」のそれぞれの取組に取り組んでまいりました。

簡単に今年度実績の御説明(4ページ)ですけれども、ファンドサポート事業につきましては、申請25社ございまして、8社採択させていただきました。

今年から2年間、交付金を交付するとともに、伴走支援、財務支援等をさせていただきます。県内で事業をやっていただく予定となっております。

続いて実証実験サポート事業につきましては、135社もの申請をいただきまして、最終的に地域等とマッチングいたしまして、10社の採択をいたしました。

これは今年度中まで実証実験をやっていただき、年度末に成果発表会を開きたいと思っております。

公共調達モデル創出事業の方ですが、県の課題に対して手を挙げていただき、県庁の各部局とマッチングする事業ですけれども、こちらにつきましては申請20社ございまして、3社採択させていただきました。

これにつきましては現在、実証実験のプランを作成中で、来年度に、この3社の方と県の各部局が連携して、実証実験をやっていく予定でございます。

パブリックピッチは、今年度につきましては、伊豆、東部、中部の地域で各市長、町長様を前に、スタートアップの方に御登壇いただきまして、ピッチを行いました。これも何件か各市町の方と、スタートアップの方で連携に向けて協議を行っている最中でございます。

TECH BEATにつきましても、来場者が1万名を超えまして、商談も12月末時点ですけれども、現時点で536件商談が行われております。

一番下のShizuoka Startup Dayということで、こちらは東京のTiBで12月に、静岡県のイベントとして開催いたしました。

来場者は当初の予定を上回る、500名もの方に御来場いただきまして、高い満足度の結果も出ているところでございます。

続きましてKPIの進捗状況(5ページ)ですけれども、以前、事前にお配りした資料から数値を精査し、若干変わったところもございまして、こちらが最新版ですけれども、①の県内のスタートアップ数は、180社から200社に今年度増やしていく目標のところ、実績値としましては、ほぼほぼ達成の199社という状況になってございます。

その次、県事業により県内拠点を設けたスタートアップ数も今年度15社が目標のところ、16社と目標達成いたしました。

資金調達総額につきましても、218億円のところ231億円ということで、こちら目標を達成しております。

一番下の評価額100億円以上のスタートアップですが、2028年度目標で3件創出というところにつきまして、今年度1件誕生したというところでございます。

それぞれ少しずつ増えているところでございます。

こちらの表(6ページ)につきましては、順位がどうこうというよりも、199社というの

が東京と比べて、若しくは全国と比べて、どんなレベルかという表になりますけれども、なかなかやはり東京等に比べて、まだまだわずかというところで、今後頑張っていく必要があると考えております。

県内東中西の分布（7ページ）でございますけれども、それぞれ東中西増えてきているところでございます。

西部に集中していますが、ちょっとずつ伊豆、東部、中部地域でもスタートアップが増えている状況でございます。

戦略の方向性ということで、こちら（9ページ）前回第1回の委員会でいただいた皆様の御意見をまとめたものでございます。

詳しく資料2の方で意見対応表という形でお示ししておりますけれども、簡単にまとめますとこのような形で、六つくらいにカテゴライズできるかなと思っております。

特に主な意見としまして、戦略の方向性のところで、戦略の目標が集約できてないところもありましたので、そこを明確にする必要があるというところですか、グローバル展開支援が重要と、若しくは地域特性を踏まえてセクターを絞り込む必要があるという御意見ですとか、あと次世代人材育成ですね、そこに注力する必要がありますとか、若しくは資金調達支援につきましては、色んなやり方があると思いますが、もう少し最適なあり方を今後検討していく必要があるといった御意見をいただきました。

またその他の御意見として、県で色々な事業をやっていますけれども、なるべく重複を排除して、支援策のつながりをちゃんと階段として作ることが必要ですとか、あと国のAI戦略の流れと合うような形で組み込んでいく方が良いというような御意見をいただいたところでございます。

今回の戦略につきましては、こうした視点をできる限り踏まえたものとなっているように作ったところでございます。

こちら（10ページ）は国の経済政策でスタートアップの位置づけですとか、12月にできましたAI戦略ですね、人工知能基本計画でのAIの位置づけというところを簡単にまとめてございます。

先ほどの御意見の中でもございました、本県の地域特性を踏まえてスタートアップ戦略、支援を進めていく必要があるというところで、どういう地域特性あるかというところを簡単にまとめたものでございます。（12ページ）

特にやはり上の二つ、ものづくり県、製造品出荷額が全国2位ですとか、全国トップの健康長寿県であるというところが一つの特徴かと思っております。

また、それぞれの地域特性に基づいて、県では様々な次世代産業関連プロジェクトということで、各産業分野でクラスター形成であったり、産業支援のプロジェクトを実施しているところでございます。

主なものとして、東部でやっております、ファルマバレープロジェクト、医療・健康分野のプロジェクトですとか、西部の方でやっております、光・電子技術を活用するフォトンバレープロジェクト、また次のページですけれども、先端農業のAOIプロジェクトですとか、駿河湾をベースにしましたMaOIプロジェクトなど、静岡県内の地域特性に基づいたプロジェクトを今実施しているところでございます。

続きまして戦略の方向性でございます。（15ページ）

従前のスタートアップ支援戦略でも、何のためにスタートアップ支援をしているかという目的のところをまとめておりました、この上の4つですけれども、県内企業の課題解決ですとか、社会課題の解決、雇用の創出ですとか、新しい多様な働き方の創出とか、さらには新しい産業を作っていく、そういうところを目指してスタートアップ支援をしているところですが、今回御意見もございましたとおり、県として具体的にどういう方向で、何を目指していくんだというところの出口としまして、今回二つ掲げております。

一つは地域のイノベーションエコシステムの構築というものと、もう一つが静岡県発のグローバルスタートアップの創出ということで、この双方の実現を目指す、両輪でやっていきたいということが今回の戦略となっております。

特に（15 ページ）左側の方ですね、地域イノベーションエコシステム構築というものにつきましても、スタートアップはもちろんなんですけれども、地域企業とか行政とかと連携して、それぞれが共に栄えていくような仕組みを作っていく必要があるというところでございます。

それから、静岡県から世界で戦えるようなスタートアップが生まれるように応援していくというところを両輪で目指していくということで、この戦略もスタートアップの支援戦略ではあるんですけれども、スタートアップもそうですし、県内の企業も含めて、地域産業全体の活性化のための戦略というふうに考えているところでございます。

続きましてロードマップですね。

元々これも従前の戦略で掲げているところではあるんですけれども、前回の戦略委員会でも委員から、なかなかまだ静岡県がスタートアップフレンドリーな県というふうな感じはしていません、といった御意見をいただいたのですが、おっしゃるとおりだなと思っております、それをそのような地域になるということを目指して、そのために、まず人作りとか場作りとか機運を醸成していくというのを、ここ数年力を入れているところでございます。

引き続きスタートアップの成長加速ですとか、エコシステムの形成発展というところに、徐々に注力していったって、そのような地域の姿を実現していきたいというふうに考えております。

方向性（17 ページ）ですけれども、特徴として、二つ考えております。

先ほど申し上げたとおりスタートアップの支援の効果というものを、地域に合わせてエコシステムを作る必要があるというところで、地域への波及が一つポイントかと思っております。

また近年、急速にAI技術が発展しております、この技術を県内にどのように導入、促進させていくかというところの二点が、2026年版の戦略の柱というふうに考えております。

こちら（19 ページ）が戦略の全体像になります。

今まで説明したものが全部入っているようなイメージなんですけれども、ベースとしまして県の地域資源、地域特性がでございます。

その上に、まず人作り・場作り、機運醸成というところで、人材育成ですとか、地域のコミュニティの形成とかネットワーク拡大というのがありまして、そのうえで成長の加速というところで今様々なTECH BEATをはじめとしたマッチングとか、実証実験の支援の事業を記載しております。

これらから生まれた成功事例等を横展開していくとか、地域に波及させることや、誘致に

つなげていくことを循環させることで、地域のスタートアップと県内企業を合わせた地域のイノベーションエコシステムを作っていくという流れが一つ。

もう一方で、やはり研究系、ディープテック系スタートアップをどう育てていくかというのも一つの課題でございますので、そこにつきましては、先ほど御説明したような様々な先端のプロジェクトがございますので、そのプラットフォームを活用しながら、ファルマとかフォトン等を活用しながら、スタートアップを支援していくと。

そこに大学発ベンチャーの支援ですとか、今度新規事業でやってきますけれども、海外展開の支援、それからファンドサポート事業ですね、そういうようなものを組み合わせて、国の施策にも連携させていきながら、グローバルの応援をしていくというような二つの流れを考えてございます。

資金調達支援につきましては、適切な在り方みたいなものを今後検討していきたいなと思っております。

今回の戦略に入っている予算としては、県庁全体としましては、当課以外にも、スポーツの分野とか観光の分野とか、環境の分野というところでそれぞれスタートアップに関連した事業もやっているところでございます。

こちら（20 ページ）一昨日公表されましたけれども、来年度予算案をスタートアップ関連のものでまとめたところでございます。今年度から変わっていくというところでいくと、主には次世代人材の育成のところですね。

A I のエンジニアコンテストや A I のビジネスプランナー育成プログラムということで、また後ほど説明しますが、そのような新規事業を考えております。

また TECH BEAT につきましては、1500 万ほど上乗せして、より充実させていきたいというところですか、あと、A I を活用した中小企業の課題解決支援というところを新規事業に積んでおります。

また、中段 8 番目ですね、次世代産業関連プロジェクト参加企業とスタートアップとのマッチングということで、新規で書いておりますけれども、これは今年度開催した Shizuoka Startup Day のリニューアルという形で考えております。

また海外スタートアップイベントへの出展支援と、今年度ですね、愛知、名古屋、浜松を中心としたセントラルジャパンスタータアップコンソーシアムに静岡県も参加させていただきましたので、そのあたりの取組の予算を新しく計上しているところでございます。

基本的には新規のものを入れつつ、先ほど申し上げた Startup Day とかネクストイノベーター創出プロジェクト「Fuji」というものにつきましては、別の事業にリニューアルするような形でやっていくと。

あと予算が減っているところとしましては、ファンドサポート事業のところは 1 億円弱減っているんですけども、これにつきましては、取組の内容や規模感はそんなに変わっていないつもりでございます。

今年度の実績、若しくは浜松市の実績に合わせて交付金の額の予算額を精査したところでございまして、10 件程度の採択を目指すところは、今のところ変わっていないところでございます。

基本的には全体として、精査して金額を減らしていますが、減らしつつも必要なところは取り組む、若しくは新規でやるべきところは新規で置いたような状況でございます。

これから個票（21 ページ～）になります。個別の事業になりますので、今年度から継続する事業につきましては簡単な説明とさせていただきます。

まず一つ目（22 ページ）SHIPのスタートアップ支援につきまして、これが一番本県を中心になる事業かと思っております。

スタートアップ支援の相談員を配置して、様々な支援やマッチング等を行っているところでございますけれども、これにつきましても、来年も引き続き実施してまいります。

来年度につきましては、現在、事業者の公募を始めたところでございますので、また事業者選定等も行っていく流れでございます。

続きまして（23 ページ）AI人材の育成プログラムということで、これは新規になります。

元々、AI人材自体の育成に当たっては、例えばAIの研究者とか、開発者、事業企画を考える方、若しくは我々みたいに利用する人のように、AI人材といっても色々あるのですが、特にビジネス領域では、AIのエンジニアや開発者とAIのプランナーのような部分が特に重要だということなので、それぞれを育てる事業となっております。

AIエンジニアコンテストにつきましては、これまで県の方では小、中、高校生対象のジュニアプログラミングコンテストというものを7年ほど開催してまいりました。

これをリニューアルするような形で、AI部門というのをあわせて、課題解決力を評価するようなコンテストを開催したいと思っております。

ビジネスプランナー育成プログラムにつきましては、これも県の方で、2年ほど「Fuji」という高校生対象としたアントレプレナーシップのプログラムを開催しているところです。

このプログラムのビジネスプランのところ、AIを活用したビジネスプランを企画立案できるようなスキルを磨く、7ヶ月ぐらいかと思うんですけども、長期のプログラムを開催したいというふうに考えているところでございます。

学生起業家コミュニティ「CREWS」（24 ページ）ですけれども、これは今年度から立ち上げたものでございます。

引き続き、特に充実していきたいと思っておりますけれども、県の取組だけではなく、県内色々なところで、アントレプレナーのプログラム等ございますので、そのようなプログラムの卒業生等も、できるだけ入ってきてほしいと、若しくは先ほどのAIのプログラムの卒業生の方などが入っていき、交流する中で、次の挑戦につなげられるように、そういう場になっていければというふうに考えております。

スタートアップ支援コミュニティ「ふじのくに“SEAs”」（25 ページ）ですけれども、これも引き続き実施してまいります。来年度はリニューアルというか、リブランディングというか、名前を変えて、役割も当初からだんだんと変わってきているところもありますので、スタートアップ支援ももちろんそうなんですけれども、スタートアップとつなげて企業様の支援であったり、若しくはそれぞれ各地域にあるコミュニティの支援というところにも力を入れていきたいなというふうに考えてございます。

CIC（26 ページ）につきましては、2名ほど県の方から常駐して、かなりネットワークを広げておりますので、ネットワークをどんどん活用して、その他のスタートアップの施策につなげていきたいというふうに考えております。

「TECH BEAT Shizuoka」（27 ページ）につきましても、予算も上乗せして、ますます静岡銀

行様と連携しながら、若しくは他の実行委員会の皆様とも連携しながら、静岡県を代表するようなスタートアップの催しというふうにしていきたいと考えております。

実証実験サポート事業（28 ページ）につきましても継続していきます。

また新たに公募いたしまして、実証実験を県内で行うスタートアップの成長支援をしていく予定でございます。

公共調達モデル創出事業（29 ページ）、いわゆる県事業とのマッチングと県での導入ですけれども、これにつきましては、先ほど申しましたが、来年度については、今年決まった3社の実証実験のフェーズということで、新規の募集はないですけれども、実際に実証実験をやっていく中で効果検証していったら、もしうまくいくようであれば、その次の令和9年度以降、県がスタートアップ事業を調達するようなモデルが作れたらというふうに考えております。

こちら（30 ページ）新規事業になりまして、中小企業にA I 導入をする実証支援ということで、1 件 500 万円の補助率で3 件ほど考えております。

これにつきましては、S H I P の事業の中で組み込む予定でおります。

新規の事業なので、どういう形でやっていくか、これから細かい設計をしてみたいと思いますが、このような形で、できるだけA I の導入の支援等もやっていきたいというふうに考えております。

静岡県内大学発ベンチャー支援協議会というものがございます。（31 ページ）

こちらは今、県内の16 大学が参加しておりまして、コーディネーターが静岡県産業振興財団でございます。

コーディネーターがそれぞれ大学を回って、それぞれ研究シーズ等を掘り起こして、地域の企業と結びつくような取組というものをやっているところでございます。

ファンドサポート事業（32 ページ）につきましても、継続してやっていきます。

先ほど御説明したとおり、今年度認定V C が46 社ございましたので、またこういうところから御推薦をいただいてスタートアップの採択をしていきたいというふうに考えております。

それから冒頭に御説明しました「次世代産業関連プロジェクトとの連携」（33 ページ）というところで、特にファルマとかMaOI とかAOI とかフォトンみたいなところに、フォトンバレーなんかは何社か既に色々なスタートアップが生まれていますので、こういうところと連携しながらスタートアップの研究とかですね、若しくはマッチングというところを支援していきたいというふうに考えております。

こちら（34 ページ）は東京で予定しておりますけれども、この次世代関連プロジェクトと首都圏のスタートアップのマッチングのイベントを、今回の「Startup Day」ほど大規模ではないですけれども、その代わり回数を3 回程度の想定ですけれども、何回かそういうふうな形で東京でやっていきたいと考えております。

次に、温泉旅館のオフィス化事業（35 ページ）につきましても、引き続き継続してまいります。

モデル事業者を選定していったり、あとは入居企業の誘致、視察ツアー等やって力を入れていきたいというふうに考えております。

次は新規で海外展開支援（36 ページ）ということで、来年度につきましてはフランス・

パリで開催される「Viva Tech」に静岡県として出展したいと考えております。

今取りまとめをしていただいております、在日フランス商工会議所というところがございますけれども、そこにエントリーをしているところで、恐らく出展できるのではないかなというような状況です。

規模としましては、今年度、愛知県様が2社程度、県内スタートアップを連れて行くというところで、県のブースと合わせて2社出展するようなイメージでおります。

現在、出展するスタートアップの選定をやっているところでございます。

今回、初年度なものですから、どういう形で出展してどういう形になるか、色々検証しながら、より良い海外展開の支援の形をこれから考えていきたいというふうに考えております。

次がスタートアップエコシステム拠点都市（37ページ）ということで、これは広域での連携のところの取組で、主にTech GALA等のイベントですとか、海外スタートアップの呼び込みとか、若しくは一緒に海外に行くというケースもあるかもしれませんが、そのような形で中部圏の連携を取っていきたいというふうに考えております。

以上で、駆け足でありましたけれども、戦略2026の全体像ということになります。

恐れ入りますが皆様、御議論等よろしく願いいたします。

以上になります。

5 意見交換

○木村委員長

それでは、事務局からの御説明は以上となりますので、ここから意見交換に入りたいと思います。

先ほど事務局からスタートアップ支援戦略2026の御説明いただきましたけれども、これに対して委員の皆様からの御意見をお伺いしたいと思います。

それでは皆様、何かご意見ありましたら、よろしく願いいたします。

○篠原委員

静岡ベンチャースタートアップ協会の篠原でございます。ファンドサポートの中の、特にシード枠ですが、シード枠がシードになっていないという問題がありまして、2年間潰れないスタートアップというのは、ベンチャーキャピタルすら投資できないような石橋の叩き方で、シードになっていないと思うんですね。

全体の枠組みとしてはいいと思うんですけども、是非シード枠の採択基準を今一度、もっとチャレンジングなものにできるといいなというのが一点です。

それから、県外の方、特に首都圏の方々に、静岡のスタートアップエコシステムの認知度等を伺うときに、特に次世代産業関連プロジェクトの認知度が、ものすごく低いので、これは我々の責任でもあるのですが、我々も一緒になって首都圏でもっとこの辺の活動ですとか、フィールドがこんなに沢山あるんだというところをPRできるといいな思っています。

それから次世代人材育成、特にAI人材ですけども、DXのときも同じ話ですが、スピードがあまりにも速いので、この中身をどうしていくかがすごく悩みどころというふうに個人的に思っております。

以前から県の皆様にお話差し上げているところですが、既に教材になっているものだったり、教える側の立場になっていらっしゃる方々の知識が、既に古いという問題がありまして、やることはとても意義のあることだと思うんですが、どうやっていくかというところ、ここを工夫しなくてはいけないところだろうと思っています。

それから最後ですけれども、特にコミュニティのところ、これも、私どもの活動で我々やっていかななくてはいけない部分ではあるのですが、県内で小さい地域であったり、セクターごとのコミュニティがどんどんできているのは素晴らしいことだと思うのですが、そのコミュニティ間の連携ですね。

ここを何とかしてやっていきたいと思っております、つい先ほどもSHIPさんとお話を個別にしていたところだったんですが、FUSEとかコクリとかSHIPとか、L t Gとか、そのあたりの少なくとも会員情報だったり入退館システムだったり、あるいはオンラインのコミュニティだったりイベントカレンダー等を統合できないかなというふうに強く思っております。

そこに向けて我々も活動をしていきたいと思っております、そこを連携していくというのは、オール静岡を実現していくに当たって、非常に重要なことなんだろうというふうに思っています。

○木村委員長

篠原委員どうもありがとうございました。その他皆さんの方からいかがでしょうか。

○石田委員

イシダテックの石田でございます。

まず、前回様々な意見あった中で、お取りまとめと反映をしていただきまして、ありがとうございました。

私がよく分かっていないだけかもしれないんですけども、一つありまして、戦略KPIが設定されていると思うのですが、2025年度のもの、26、27、28年と、年度別に追いかける数字を掲げていただいているんですけども、追いかける方として、年度ごとに結果論で、③の評価額100億以上のスタートアップを3社目掛けていくのか、これが3社になるように年度ごとに育ってきたスタートアップをえこひいきして、この会社を100億以上で上場してもらおうみたいな施策で追っかけていくのか、何か追いかける方のお考えはありますか。

どこかで転換点があると思っております、エコシステムであったりスタートアップ数を増加させて勝手にファネルで落ちてきて100億円以上になるわけでもないと思っております、どこかでがつつと支援するであったりとか、このまま毎年度、色々な施策に予算を割り振っていくのか、それとも、3社出すためのお考えとか、今考えられていることがあれば是非教えていただきたいというところがございます。

○木村委員長

ありがとうございます。今のお話に関しては、もし県の方で答えいただけるのであれば、忘れないうちにお答えいただいた方がいいような気がするのですがいかがですか。

それとも少し時間をおいて考えておいていただいて、後でお答えいただく方がいいです

か。

○事務局（内藤産業イノベーション推進課長）

今の石田委員の御質問にお答えさせていただきます。

結論からいうと特に3社のための、圧倒的に何かそこに集中投資するような事業というのは、今のところ想定していないのが現状でございます。

最終的にはないですけれども、様々な施策をしていく中で、一番難しいKPIだと思うものですから、そこをどうやって実現するか、まだ具体的なラインができていないんですけれども、ただ特に、このくらいのスタートアップになると、どちらかといえばディープテック系のものになるのかなと思いますので、ある程度グローバルを目指すような、そちら側の方の施策と連携しながらつなげていくのかなと。ファンドサポートも含めてというふうには考えていますけれども、そこにまだ、現実に具体的に3社創出の取組が明確にあるわけではないです。以上です。

○石田委員

ありがとうございます。少し何かお答えしづらい、行政がお答えしづらい問題かなと思いつつも聞いてしまいましたというところなんですけれども、すみません。

補足で、10年後の未来目標が掲げられていたのは、スタートアップにフレンドリーな県というところであったんですけれども、そうであれば、そのフレンドリーたらしめるKPIみたいなところも何かあると、外部から見てわかりやすいなというふうに思ったんですね。

例えばこれが適切かどうかかわからないのですが、私もあまり詳しくないので、例えばなのですが、スタートアップの生き残り具合とか成長率とか、なるほど、静岡県に来ると、静岡県らしい産業に携わりながら成長できるんだ、みたいなところがわかってくると、外部から招致しやすかったり、静岡県内でもそういった機運が醸成できるのかなというふうに思っています、何かこう、どうやって図るんだ成長率は、みたいなところで難しいところもあるかもしれないんですけれども、フレンドリーに振ったKPIみたいなものがあるとわかりやすいかなというふうに思っていました。

○木村委員長

ありがとうございます。今おっしゃられたフレンドリーなKPIは非常に面白いなと思いました。ありがとうございます。

確かに静岡県に来ると生存率が高いというのは面白いなっていう気はします。ありがとうございます。

その他皆さんいかがでしょうか。

○篠原委員

一点追加でよいでしょうか。改めて篠原です。

昨日、立ち話で、山家さん（産業革新局長）にもお願いしたんですけれども、県で色んな素晴らしい施策をやられているのを本当にいいなと思っているんですが、色んな基礎自治体さんを回っている中で、毎回必ずいただく御相談ごととして、県の色んな施策に応募する

方々のリストが欲しいというのは御相談いただくんです。

基礎自治体としては誘致の営業をしたいので。若しくは基礎自治体ごとのプログラムに対するお誘いをしたいという意図があって、なのでリストが共有できるといいよねと。

今現状でいうと最終的に採択された結果のものは公表されるので、もちろん共有になるんですが、応募時点での、何か共有できるミートアップの場なのか、あるいは応募要項の中に一行入れておいて、県内の市町で共有しますみたいなものがあれば、それでもう片付くでしょうし、何かそういう形でできると、せっかく全国から色んな方々が応募していらっしやったり、起業されたりするものなので、そういう連携ができるといいなって思いました。

○事務局（石井産業イノベーション推進課長代理）

今の御意見につきまして、今年度は残念ながら、やっぱり市町の方に情報を御提供ができなくて、それがですね、公募の段階でお知らせしますよってところが応募者の皆さんからいただいていたというところで、ただその部分は改善できるかなというふうに思っていて、例えば公募をかけるときに、市町に情報共有しますよというところで、やり方で工夫できるのかなというところはあると思っています。

来年度の事業をやるときにですね、少しその辺は工夫させていただければなというふうに思っています。

スタートアップの皆さんにとっても、篠原さんにも実証実験サポート事業とか、数々の事業に御参加いただいているのでかなりお詳しいとは思いますが、特に実証実験サポートのシードの前のところから、市町村とつながりたいというスタートアップさんも結構あって、逆にスタートアップにとってもウィンな御提案かなというふうには思っています。

なのでそこはですね、是非実現できるように工夫というか検討というかさせてもらえればなというふうに思っています。ありがとうございます。

○木村委員長

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

余談になるんですけども、先ほどK P Iの中の評価額の100億以上という議論になったのですが、実は私が昨年までいた静岡大学のスタートアップが、全部で60いくつぐらいあるんですけども、地方大学の中で結構多い方だと思うのですが、その中で2022年だったかにマザーズに上場した会社があってですね、そこが一時期900億あったんですよ。

今調べたら今でも650億ぐらいはあるんですけども、ただ静岡県ではないというところですね。申し訳ありません、東京ですが、今すごい立派な会社でしたので、非常に嬉しいのですが、何かやりようによってはそういうものもあるのだなというのは思います。

参考までのお話です。

そのほか、皆さんの御意見いかがでしょうか。

なかなか手が挙がらないので、すみません。順番で、委員の名簿のですね、本日御出席でいきますと次、東委員よろしくお願いします。

○東委員

よろしくお願いします。

そうですね。全体の枠組みの説明をいただいたので、少々中身のお話をいたしますと、篠原委員の話も関わるかもしれませんが、それぞれのプロジェクトは良いのですが、そこに応募してきてる提案内容が実は結構、この政策プロジェクトかっていうところに応募してきてることが結構多いのです。

応募の段階も違うとか、本来は別のプロジェクトに応募した方がよかろうというのもありまして、結構、今回は色々とスタートアップ関連政策を一気に新規で立ち上げたのもあり運営事業者側も混乱されたと思うんですけども。

それぞれのプロジェクトがスタートアップのどの成長段階に相当して、どういう支援が最適なのかとか、政策指針みたいなのが多分ちゃんと応募者に伝わってないケースが散見されたということで、それをマネジメントする事業者もそこはあまりわからずに上げてきて、審査会に流れ込んでくるみたいなケースがあった。

採択審査で内容を見させていただいたら結構、ある意味惨たんたるものもありました。ほぼすべての政策プロジェクトを私審査させていただいたんですが、多分最初の政策的な意義の意識合わせをどこまで早い段階でできるのかということと、対外的には、私も一部政府のこういうスタートアップの支援のプログラムでやってるんですけど、事前相談みたいな枠を1回挟んでですね、これは公募なのでできるかどうか難しいんですけども、事前相談枠を入れて、公募する前に相談のってあげるよみたいなワンクッション挟んであげて、この政策の方が合っているんじゃないのみたいな、ちょっと交通整理が要るのかなと思っていたところがございます。

ファンドサポートに関しては対VCに対してもそれをしないと、色んなVCが出てきますので、内容の政策的な目的だとか内容のマネジメントをどうしていくのかっていうところが重要なと思います。

そうですね、大学発ベンチャー支援のところは、県内に色々大学があるということもありますけども、やっぱり大学の中でも、今内閣府と一緒に全国見てますけれども、大学の中のスタッフ、TLOとかURAとかですね、地方大学はそのあたりの人材リソースがほぼない状態で、何かネタ出してくれていうのも大学側にとっては、結構酷な話なので、そこをどうサポートするかみたいな枠組みが徐々に出てきてます。

東京都はある程度財源があるので、東京都が東京都内の大学サポートみたいな形の枠を予算化して行って、その体制強化を都としても後押ししますよ、みたいなことやってきているのですが、多分そんなに県内で大学の数も多くないので、そのコーディネーターもしくはURA、TLOみたいなところをある程度集めて、目線合わせしていくみたいなところの共通化もできてあげると、大学としても助かるのかなと思って伺ってました。

一旦以上でございます。

○木村委員長

ありがとうございます。

後段の方の大学の方の支援ですけども、まさに東委員おっしゃるとおりで、県内大学が全部で20いくつがあるんだと思いますけれども、全く対応が難しい大学もあると思いますし、今いわれたような支援は絶対必要だなというふうに思いました。

どうもありがとうございます。

それでは次は、土居委員よろしいでしょうか。

○土居委員

浜松市スタートアップ支援担当の土居です。御説明ありがとうございました。

前回の委員会は参加できませんでしたが、その際委員の皆様から出てきた意見については拝見させていただいております、それとも重複するところではありますが、やはりスタートアップ支援は転換期を迎えているのではないかと考えておまして、とにかく裾野を広げるということを目的としたこれまでの取組からですね、今後は高さを出していく、地域にしっかりと根づかせて地域経済にしっかりと貢献する、そういった事例を作っていくというフェーズに変わってきているのではないかなと考えているところであります。

そのためにはやはり、御紹介いただきましたけれども、静岡県地域特性を踏まえ、ある程度、ある分野に絞ってスタートアップ支援を行って、高さを作っていくということがやはり必要になってくるのではないかなと思います。

これは浜松市の方の課題でもあるのですが、今日公表になったと思いますが、浜松市の来年度予算事業については、第二期の戦略に掲げているとおり、ものづくり型とディープテック型、この分野のスタートアップをより重点的に支援していきたいというふうに考えていて、この分野の浜松発のスタートアップを生み出すために、浜松市内での事業展開に向けた調査や、それを踏まえた起業を支援するプログラムを新規で来年度からやっていきたいと考えています。

特に浜松だと、先ほどの説明の中にもありましたけれども、フotonバレーに関して、光関係のスタートアップのいくつかがイグジット手前のところまでできていて、レーザー型の核融合のディープテックスタートアップも出てくるなど、光分野は浜松市、静岡県の強みの一つになっていくと考えており、そういったところに支援を集中していく方向に、浜松市としても舵を切っていくといけないと考えています。

そういった意味で、県におかれましても、これと連動するような形のご支援、静岡県内ではフoton以外にもファルマやMaOIなど色々な分野のクラスターがあると思いますが、そういった県にとって強みとなる分野に支援を絞っていくような方向性で施策について御検討をいただいて、連携させていただければありがたいなと考えています。

あと1点お聞きしたいのは、今回A Iの支援というのが一つ大きな柱として打ち出していかれるということだと思うのですが、19ページの戦略の全体像の中で、A I技術の位置付けがなんというか、人材育成の中のプログラムの一つとして、マッチング実証実験支援の中の一つとして入っていますが、この戦略の全体像にA I技術を支援していくことがどういうふうに絡んでいくのか、どのように寄与していくのかがちょっと見えにくいかなと思われましたので、お考えがあれば教えていただけるとありがたいです。以上でございます。

○木村委員長

ありがとうございます。

次、事務局の方で今の最後の御質問に関して、もしお答えがあればよろしくお願いたします。

○事務局（内藤産業イノベーション推進課長）

AIの部分をどう全体像と絡めていくかというお話ですが、御質問の趣旨に合っているかどうか分からないのですけれども、スタートアップの支援戦略の会議は今日なんですが、別途ですね、デジタルの人材育成の戦略というのも当課の方で立ち上げておりまして、こちらの方にもAIの取組なり戦略を掲げているところです。

事業としては重複していて、こちらの人材育成であったり、人材確保ということで、先ほどのAI事業と中小企業のマッチングみたいな事業もありますし、あとはベースのリテラシーのところで、県内のそれこそ静岡大学様とか沼津高専様とかと連携した講座みたいなものでリテラシーを上げていく。経営者も含めてですね。そのような取組もしながら、セキュリティも含めリテラシーを上げていくような事業はやっていきます。そういう形で人材育成の方に力をいれてまいります。

ありがとうございます。

○木村委員長

ありがとうございます。よろしいですかね。はい、ありがとうございます。

それではですね引き続き前澤委員よろしいでしょうか。

○前澤委員

よろしく申し上げます。どうもありがとうございます。

私の方は意見というよりは、一つ情報提供ですが、予算なので2月議会にお諮りしてからにはなりますが、来年度の県の教育委員会では、理系人材の育成に4000万円を新規事業として計上しております。

元々平木副知事がヘッドの、県内の女性起業家、女性経営者の育成強化のプロジェクトから派生したのですが、県内の小、中、高校生までを対象に、一つは小、中段階での理系人材の育成というよりは、むしろ意識付けとか、あるいは、ジェンダーバイアスの排除のようなイベントを計画しております。

もう一つはトップ層の高校生を伸ばしていくということで、10チームぐらいの高校生の研究チームを公募しまして、そこに大学や企業などにも伴走していただいて、最後に研究プロジェクトとして、まとめてプレゼンテーションしていただくことを検討しております。

間接的ではありますが、県内のスタートアップ、特に技術系スタートアップですとか、あるいは技術系企業の、人材輩出にお役に立てるのかなとも思いますし、また、今日色々産業イノベーション推進課の説明を伺っていて、いくつか既に県で行っているスタートアップ系の事業のイベントとも連携していけるのかなと思っているところです。以上でございます。

○木村委員長

前澤委員の方からですね、県の予算に関して今、貴重な情報をいただいたところでございます。ありがとうございます。

特に私個人的にはなるのですけれども、理系人材ということで、浜松の方で小中学生の飛び抜けた才能を活かすという「トップガン」という事業もですね、県にも参加いただいて、

もう 10 何年かやってきているんですけども、ぜひそれも御支援いただけるとありがたいなど。

よろしく願いいたします。

次、田島委員はいらっしゃっていますか。よろしく願いします。

○田島委員

以前もお話したかもしれないですが、ディープテックのスタートアップは、ライバルが日本じゃなくて世界のスタートアップであるということを改めて認識することが大切だと考えています。

例えば、シードラウンドで 3 億円ぐらい調達した日本のスタートアップがあったとして、そのスタートアップによく似た事業領域で海外プレーヤーがシードラウンドで 300 億集めて、一気にグローバル展開を推進していきますということが起こる訳ですが、このような状態を鑑みると、本気で地域を代表する会社を作ろうとするのであれば、世界で通用する会社を地域発で生み出すという視座に立たないといけないのではないかと。静岡が日本中の投資家を巻き込み、日本中の事業会社を巻き込んでオールジャパンで、地元のスタートアップを応援していくという視座に立たないと高い確率で海外勢に負けてしまうのではないかと。

ほとんどの都道府県が地域を代表する会社を創るという視座にとどまっている印象があり、その視座だと最終的に世界に通用する会社どころか、地元を代表する会社にもなれないんじゃないかと思っているところが私が強く感じている危機感です。

あとはいわゆるビジネスマッチングに関して、私も様々な地域にお伺いしていますけれど、現状はスタートアップイベントをやって数多くの方が来てくれました、でも成果には繋がりませんでしたということを繰り返しやっている印象があります。

今は AI の活用によって、その企業はどのような事業内容で、どういうニーズを持っているのかという情報を全部 LLM の中に入れたときに、もう相当人間では思いつかない組み合わせをアウトプットしてくれるようになっていきます。

日本中のイノベーションに関わるプレイヤーの情報をデジタルデータとしてアップデートする仕組みを創り、そこを全部繋げることができれば、より無数の出会いが生まれるんですよね。

そういう形でやっていけると本当にオールジャパンでより大きな産業を生み出せると考えているので、私は AI 活用や仕組み創りをしっかりやるべきだと考えています。

○木村委員長

ありがとうございます。

今いただいた意見は、非常に重い意見だなというふうに思いますし、多分県の皆さんも非常に重く捉えられているのではないかなと思います。

今いくつかお話ありましたけれども、是非知事も交えてですね、議論していただければいいのではないかなと思います。よろしく願いします。

○田島委員

はい、次世代に持続的な社会を受け継いでいくためには本当に時間がないので、主語のレイヤーを上げて議論できると個人的にはすごくエキサイティングだなと思いますし、とても重要なことだと思います。ありがとうございます。

○木村委員長

ありがとうございます。

一通り御出席の委員の皆様から御意見いただきました。

ほぼ皆様に言われているので、私自身は特に追加はないですけれども、非常に思ったのが、最近静岡県であったり静岡市中心に駿河湾のところが新しい展開を見始めているなというのがあってですね。

私自身も先ほど MaOI の話がありましたけれども、静岡市の海洋DXに深く関わっている部分もあって、その辺の部分からかなり新しい何か生まれそうだなと。

しかも海洋DXというと、漁業とかいわゆる水産系の人たちだけで今までやってるところに、実は浜松の光の技術を入れるというようなことも始まっているので、割と面白い何かができそうな予感がしています。

是非この先の展開についてですね、注視いただけたらと思います。

あと、先ほどのお話で専門家がもう古過ぎちゃって駄目じゃないのかという話ありましたよね。

実をいうと、今我々の大学なんかでも、教員採用に関していわゆる専門家っていわれている、どこかで学位を取った人っていうのは、もう分野によってはあまり学位が役立たなくてですね、実をいうと、あるスタートアップの技術者を教員にしたりしているんですよ。

その人は学位も何も持っていないのですけれど、ただ、ものすごいスキルがあって、いわゆる大学教員ではとても太刀打ちできないようなものを作ってくれるという。

実は最近学内では、結構それが反感を呼ぶのですけれど、学位がない人を、実は教員採用したりとかっていう、委員の中にもそのような方がいらっしゃるのであまり大きく言うといけないのですけれども、一応そんなことも、これから案外あり得るのではないかなというふうに思っています。

○東委員

知的財産戦略本部の中では国際標準みたいな話を産業戦略と一体的に考えるみたいな議論が起こってしまっていて、本当にグローバルでスケールするようなスタートアップを生み出すことを考えれば、EUのニューアプローチみたいな話で新しい法律のフレームワークを作ってスタートアップ支援するなどは参考になります。EUがやっているやり方は標準化戦略を一体的にやっていってるんですよ。

欧州は規制と標準と認証を一体設計して成長戦略を組みますよ、みたいなことやってるので強いんです。

欧州はある程度大枠のルールフレームワークを設計し、詳細はアジャイルガバナンスで制度設計するという。

だから日本の場合は1個ずつ、これはリスクだ、あれはリスクだとなってきて、新しくサンドボックスに突っ込みましょうか、これは特区でやりましょうかという、その個別アプ

ローチで時間が非常にかかりすぎる。そこを変えない限りは本当にグローバルな競争に勝てるのかという話は一方であるかなと思ってます。

加えて、静岡はっていう主語ではなくて、本当に日本でやらないといけないってところがもう少しレイター段階での資金調達の問題で、特に大企業側との関わりなんですけれど、結局日本のCVCは少し出資して、その後の連携で言うと、ギリギリ走れるような資金供給しかしないんです。アメリカとかはCVCから出資した後、巨額な研究開発費をディープテックスタートアップに限りますけど、突っ込んでいって、毎回ステージゲートを経て、次の段階に進めばまた次のR&Dを投入するみたいな形で、R&Dのロードマップの設定をスタートアップときちんとしていきながら、どんどんお金を突っ込んでいくみたいなことをやっているのが、ユニコーンが生まれる。ここが日本は弱いので、結局ほとんどNEDOやAMEDのグラントに頼りますみたいな形で、ほぼ補助金である程度経営を繋ぎ、小さくIPOするみたいな形になってるので、本当はCVCを持ってるような企業側のR&DとCVCのセクションの意識合わせをしておかないといけないというのが、やっぱりディープテックスタートアップが大型化に至らない理由なので。その大企業のスタートアップの関わり方とか、昔、大企業側が中央研究所を持って、自前でやっていたことをその後切り離れた結果、アカデミアと大企業の研究開発に関する領域の、乖離が結構激しくて、それがディープテックスタートアップを巨大化、ユニコーン化できないような根本的な理由だと思います。R&Dリソースのところをどうやってスタートアップ側に寄せて、そこで、大企業が昔持っていた中央研究所的なリソースを大学から切り出しスタートアップに流していくのかというところまでやらないと本当にグローバルスケールのディープテックスタートアップはできないなっていうのが、最近持っている課題認識です。

○木村委員長

今の御意見も先ほど田島委員からいわれているような話ともうまく繋がってくるようなこともあると思いますので、ぜひ検討していただけたらと思います。

どうもありがとうございました。

一通り皆さんから御意見いただきましたが、その他追加で何かご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局の方にお尋ねしたいのですが、本日欠席の委員からのコメントみたいなものはありますでしょうか。

○事務局（内藤産業イノベーション推進課長）

一応皆様には御照会をさせていただきましたけれども、現時点でいただいているものございませんでした。

○木村委員長

分かりました。そろそろ時間もまいりました。意見はここまでということでもよろしいですかね。

それでは、皆様からいただいた、非常に貴重な意見がいっぱいあったと思いますけれども、御対応について、事務局の方に一任するというので皆さんよろしいでしょうか。

是非御検討をお願いしたいと思います。

○事務局（内藤産業イノベーション推進課長）

特に実務レベル、例えばシード枠の話であったり東委員からプロジェクトの重複の適正化もありましたし、高い視座の田島委員や東委員からいただいた御意見につきましても、最終的に県の施策に落ちるとしても、考え方としてグローバル若しくはその世界のレベルで考えていく必要があるとか、若しくは未来に向けての視点、長期的な視点みたいなそういう高い視座の、広い視野ですね、事業を組み立てていく必要があるなというふうに思っております。

本当に貴重な御意見ありがとうございました。

事務局の方ですね、取組に反映させていきたいと思っております。ありがとうございます。

○木村委員長

ありがとうございます。それでは、以上で予定した協議事項は全て終了ということで、進行を事務局の方にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

6 閉 会

○事務局（石井産業イノベーション推進課長代理）

本日は皆様からいただいた御意見等を踏まえまして、事務局において戦略公表に向けた準備を進めてまいります。戦略の公表は、県議会での承認を経て3月下旬を見込んでおりますので、御承知おきをよろしくお願いいたします。

公表の際にはですね、委員の皆様にも書面にて御報告させていただきます。

それでは以上をもちまして静岡県スタートアップ支援戦略推進委員会を終了いたします。今後とも、引き続き静岡県のスタートアップ戦略に御支援を賜りたいと思います。本日は誠にありがとうございました。